

『武家の古都・鎌倉』塾 開講記念講演＜鎌倉武士の遺したもの＞

2007.7.21(土) 10:00-12:00 鎌倉商工会議所ホール

「世界遺産の意義はかけがえのない古都鎌倉を守ること、
知ってもらうこと」推進協議会理事、鎌倉ペンクラブ会長の
早乙女貢さんの講演が行われました。

2007年7月21日(土)、鎌倉商工会議所ホールで、
鎌倉世界遺産登録推進協議会理事・鎌倉ペンクラブ会
長で直木賞作家の早乙女貢さんによる「武家の古都・
鎌倉塾」開講記念講演会「鎌倉武士の遺したもの」が
行われました。会場には募集定員を上回る聴衆が集ま
り、世界遺産登録に寄せる市民の関心の広がりを示し
てくれました。

◎ 講演要旨

講演は鎌倉の世界遺産としての価値を見直そうとい
うもので、早乙女さんはまず「大和・平安で花開いた
貴族を発祥とする文化は、奈良・京都・鎌倉で定着した。
鎌倉だけが世界遺産に登録されていないというのはお
かしい」と現状に触れ、“文化の伝承”の上からも鎌
倉の世界遺産登録が必要だと語りました。鎌倉には世
界遺産にふさわしい古い時代のもがないといわれる
ことについては、「ヨーロッパの石の文化に対して日
本の場合は木の文化。日本文化を継承してきたことに
鎌倉の意味がある。縄文、弥生から連なる古代文化が
鎌倉時代を経て現代につながっていると見ている」と
歴史の中で鎌倉を位置づける視点を強調しました。

さらに「天皇に寄生して貢物で食べていた退廃的な
貴族政治は中世に至って武家の勃興で崩れ、これに
とって代わった武家政治は鎌倉を日本の中心として発
展した。今日の鎌倉の持つ文化遺産は日本の近世への
大きなエポック・メイキングであり、鎌倉に興隆した
武家の存在が精神文化としても日本を象徴するサムラ
イを誕生させたのはいうまでもない」と述べられ、独
自の史観で武家社会の誕生を位置づけられています。

仏教の伝来は、それまでの神道社会を大きく変える
大事件でした。「神道と仏教は渾然一体化して、日本
人の温かな性格を物語るようになった」と話題は急展
開します。そして「鎌倉には神社と仏閣が渾然として
存在しており、神社のよさ、仏教のよさによって安心
立命が図られた。これは文化の成熟ぶりを物語るもの
でもある」と仏教に支えられた古都鎌倉の歴史に触れ



られました。

早乙女さんは武家社会から現代に至る歴史を語りな
がら、世界遺産への視点を巧みに提示されました。「(世
界遺産に登録されると)風致保存上、生活のさまざま
な制約が課せられるのではないかと心配する向きもあ
るが、鎌倉に住む人は鎌倉が鎌倉であることの喜びを
知っている。世界遺産の認定はこの鎌倉の良さを保つ
という市民の願いと乖離するものではなく、むしろ平
和と市の安全保障になるものではないか」。

このような歴史に支えられた鎌倉の世界遺産として
の意義はどこにあるのでしょうか。「世界遺産とは自
分の国にあるものを、いかに大事に保存していくかを
皆で考えることである」として「頼朝はなぜ鎌倉を幕
府の拠点としたのか」を思考の原点に据えられていま
す。

「鎌倉幕府は、自然の地形を利用して守りを固めた。
山に囲まれ、鎌倉に入る道が少ない。七口が狭い。馬
が一頭しか通れない。集団で攻撃されにくい。そこで
鎌倉の地形を自然要塞として利用しようとしたのだ。
七口を通して外には出られるが、三方山でその分、海
上交通が盛んになった」まさに武家の古都・鎌倉の自
然環境が、貴重な世界遺産の価値をもたらしている
ということなのでしょう。早乙女さんが結語として述べ
た「かけがえのない古都を『守っていく』『知ってら
う』というのが、鎌倉の世界遺産登録の意義」との
簡潔で力強いメッセージが心に刻み込まれました。